The Japan Society of Medical Entomology and Zoology

〔衛生動物 Vol. 41 No. 1 p. 71-74 1990〕

資 料

高知県におけるマダニの人体刺咬12例

鈴木了司　山口　昇*
猿田隆夫**　橋口義久

高知医科大学寄生虫学教室
(〒783 南国市岡豊町小蓮)
* 埼玉医科大学短期大学
(〒350-04 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38)
** 猿田皮膚科診療所
(〒781 高知市升形 7-3)

(受領：1989年9月20日)

Twelve cases of tick-bite among humans in Kochi Prefecture

Noriji SUZUKI, Noboru YAMAGUTI, Takao SARUTA and Yoshihisa HASHIGUCHI

Department of Parasitology, Kochi Medical School, Nankoku 783, Japan
** Junior College, Saitama Medical School, Iruma-gun, Saitama 350-04, Japan*
*** Saruta Dermatological Clinic, Kochi 781, Japan*

Key words: human tick-bite, Kochi Prefecture, *Ixodes nipponensis*, *I. ovatus*, *Amblyomma testudinarium*, *Haemaphysalis longicornis*.

人体のマダニ刺咬例は，近年，日本各地から多数の報告がみられているが，高知県を含めて四国からの報告は比較的少なく，その分布種もかならずしも明らかではない．

著者らは1982年以来，高知県内で12例の人に刺咬したマダニの虫体の同定を行ったので，それらの症例を紹介する．

症　例

症例1：66歳，男，大正町在住．大正町田野々診療所から検査依頼を受けたもので，右側腹部に寄生．刺された瞬間の掻痒感はない．その後に痛みおよび痒みを伴って，1982年5月25日に受診．刺咬部位を中心に約1cm径の発赤がみられた．皮膚片とともに切除．刺咬は窪川町の知人宅でイヌのダニをとっているそばで話をしているときではないかと申し出ている．十分に吸血した *Ixodes nipponensis* タネガタマダニの雌と同定した．

症例2：73歳，男，高知市在住．国立高知病院から検査依頼を受けたもので，刺咬を受けた場所は不明．初期に自覚症状はなかったが，右足背部に黒色の結節を認め，2～3日後から軽い疼痛があり，1982年7月12日に受診．全身状態は異常なく，肉芽腫と考え，皮膚片を含め，虫体を除去．*Amblyomma testudinarium* タカサゴキララマダニの雄と同定．本症例は前記症例1とともに第37回日本衛生動物学会西日本支部大会において報告した．

症例3：57歳，男，室戸市在住．1982年11月19日に高知県立安芸病院を受診．肛門部右下に寄生しており，肛門部周囲に皮疹がみられ，掻痒感があったが，全身状態は良好．刺咬を受けた場所は不明．皮膚片とともに切除．ダニの大きさは19×18×7mmで十分に吸血している *A. testudinarium* の雌と同定した．

症例4：86歳，男，越知町在住．酪農家．初診日の2日前に左前胸部の小腫瘤に気づき，しかも，疼痛を伴ってきたため，自分で虫体の除去を試みたが，できずに1985年6月3日に前田医院を受診．周囲の発赤した皮膚とともに摘出した．刺咬を受けた場所は不明．*I. nipponensis* の雌の吸血個体であった．本症例は症例9とともに植田ら(1987)によって，高知県医師会学会に報告された．

症例5：58歳，女，南国市在住．前胸部に寄生．刺咬時に自覚症状はなかったが，その後，掻痒を伴う痛感あり．1986年4月22日に高知医大を受診した．刺咬部位を中心に約2cmの発赤がみられた．自宅周辺で刺咬を受けたと推定されるが，その場所は明らかではない．虫体は加熱しながら徐々に抜去された．飽血した *I. nipponensis* の雌で，口下片の欠損はなかった．

症例6：63歳，男，大豊町在住．農業および植林業．左眼わきに寄生し，顔面にやや掻痒感を伴っていた．刺された瞬間についてはまったく自覚していない．刺咬を受けた場所は近所の山中で，枝打ちをしていたときと推定されるが，日時は不明．1986年7月24日に猿田皮膚科を受診し，抜去．完全虫体．全身状態に異常はない．*Ixodes ovatus* ヤマトマダニの雌と同定．吸血はほとんどない．

症例7：9歳，男，高知市在住．左下腿に2匹寄生．1986年10月9日に受診．自然に離脱した虫体を猿田皮膚科に持参．刺された瞬間の痛感や自覚症状はないが，その後，掻痒感があり，患部には爪甲大の紅斑があっ

NII-Electronic Library Service

The Japan Society of Medical Entomology and Zoology

て，その中心に隆起がみられた．刺咬を受けた日時および場所は特定できなかったが，家族は飼い犬からではないかとしている．*Haemaphysalis longicornis* フタトゲチマダニの若虫で，未吸血の完全虫体であった．

症例8：12歳，男，高知市在住．右側腹部に寄生．刺された瞬間はもちろん，自覚症状はない．徳島県の無人島の牟岐大島で1987年3月27日より31日までキャンプをし，4月3日に寄生に気づき，患児の母親がなにか虫だろうと考え，引っ張ったがとれないので，はさみで虫体を切って，同日，虫体を猿田皮膚科に持参した．虫体は鋏角部のみ欠損していた．患者には小豆大の紅斑と痂皮がみられ，後遺症として硬結が残り，ステロイド軟膏を塗布．約4カ月後には患部に肉芽腫が形成されていた．全身状態などは異常がない．*A. testudinarium* の若虫と同定．吸血膨大化し，推定刺咬日数は5日と考えられた．

症例9：70歳，男，吾川村在住．右側腹部に発赤した小腫瘤のあることに気づき，1987年7月7日に前田医院を受診し，皮膚片とともに摘出．口下片前半分が切損していたが，ほとんど吸血した *I. nipponensis* の雌と同定した．初診日の10日前に裏山に散歩に行ったときに刺咬を受けたものと推定されている．虫体摘出後，抗生剤を5日間経口投与したところ，刺咬部の発赤腫脹はすみやかに消失した．

症例10：82歳，女，春野町在住．1989年4月29日に家の周辺の山地で草刈りをしたさいに頸部に痛みを感じ，その後，その部に触ると疼痛があったため，2日後の5月1日に永井病院を受診した．刺咬部位には5mm大の発赤があり，皮膚片とともに除去．吸血膨大化した *I. nipponensis* の雌と同定した．

症例11：3歳，男，高知市在住．頭部に寄生していたもので，患児の母親が気づいて手で取り，知人を通じて高知医大に1989年6月1日に届けられた．かなり吸血した *H. longicornis* の雌と同定した．

症例12：35歳，男，高知市在住．自宅の竹やぶで，両前膊，両下腿，肩などに付着していたもので，そのうちの2匹を持って1989年5月19日に村山皮膚科を受診．患部には痒みを伴う小丘疹がみられた．*H. longicornis* の若虫と同定．2匹とも未吸血で，口下片は完全であったが，1匹の口下片には粘着物が付着していることから刺咬していたものと考えられた．本種の若虫の人体刺咬例は，山口・鈴木（1981）により，まれなものとして報告されているが，症例7とともに今回2例が追加されたことになる．本人によれば，飼犬にも刺咬がみられ，草刈り後には，スラックスに20～30匹は付着しているという．

このほかにパンツをはこうとしたさいに虫がついているとして，高知市在住者から高知医大に1986年7月19日に *Argas* sp. near *vespertilionis* コウモリマルヒメダニの雄の少量吸血した虫体を，その後，1988年5月28日に同じ家屋内から，再度コウモリマルヒメダニ（破損のため雌雄不明）の虫体を持参した例がある．

日本のマダニ類の人刺咬例について，山口・高田（1981）が1971年以降の39例の人体症例をまとめたが，近藤・吉村（1982）は1982年3月現在のマダニの種類別の症例数をあげ，その合計が167例に達したとしている．その後，各地から刺咬例が次々と報告され，山口（1989）は，507例を種別にまとめ，近年に至り，その症例数が激増しているとしている．

四国からのマダニ刺咬例は，徳島県では，Keegan and Toshioka（1957）が *Ixodes persulcatus*（2雌，1若虫，ex human，剣山の竹やぶ，1956年7月16日，R. Tanaka）を406 MGL の採集記録に加えているが，人に刺咬していたかどうかは明らかではない．佐川ら（1978）は56歳の男性の陰嚢下面に1カ月前から寄生し，周囲の皮膚にクルミ大の硬結を伴ったマダニの人体症例を報告したが，後に著者の一人である山口は，この虫体を *A. testidinarium* の雌と同定した．馬原・藤田（1987）は1985年4月から1986年8月までに徳島県の紅斑熱発生地において，*H. flava* キチマダニ（1例），*H. longicornis*（1例），*I. ovatus*（1例），*A. testudinarium*（3例）の6例と阿南医師会病院受診の *A. testudinarium* 1例の合計7例のマダニ刺咬例を経験したことを報告し，また，Takada *et al.*（1988）は，阿南市の犬に刺咬している *A. testidinarium*, *H. flava*, *H. longicornis*, *I. nipponensis*, *I. ovatus* と，野生の囓歯類に刺咬している *I. ovatus* と *I. nipponensis* を認め，また，阿南市および日和佐町において，紅斑熱媒介者としてのマダニ相を調査し，*Dermacentor taiwanensis* タイワンカクマダニ，*A. testudinarium*, *H. flava*, *H. formosensis* タカサゴチマダニ，*H. hystricis* ヤマアラシチマダニ，*H. longicornis*, *I. nipponensis*, *I. ovatus*, *I. turdus* アカコッコマダニの生息を確認しているほか，馬原・藤田（1989）は紅斑熱多発地域で，*I. tanuki* タヌキマダニを追加している．

このほか，徳島大学医学部寄生虫学教室伊藤博士から，①80歳の女性．前胸部に刺咬し，1982年7月22日に鳴門病院外科を受診，マダニの1種とされた例，②年齢不詳の農業に従事する女性．じん麻疹と喘息発作があり，阿南医師会病院内科に1982年7月27日受診，タカサゴキララマダニとされた例，③3歳の女児．頭に刺咬，1985年7月1日に徳島市内の小児科医を受診，チ

NII-Electronic Library Service

The Japan Society of Medical Entomology and Zoology

マダニとされた3例の私信による情報がある，また，④52歳女性，公務員，徳島市内在住．右大腿部を刺され，1986年8月4日に徳島大医学部附属病院皮膚科で，切開の上，抜去された．前日に市内の山に登ったさいに刺咬したものと考えられ，未吸血で口下片の完全な *I. persulcatus* の雌と同定された例，⑤77歳の女性．阿南市在住で，頸部前面に，初診の約2週間前から痛みを伴う異物の存在に気づき，徳島大医学部附属病院第一外科で，1988年5月6日切除した．皮膚には周囲に発赤と腫脹があり，炎症所見が認められた．刺咬地は不明であるが，徳島県内と推定され，虫体は口下片が欠損した *I. nipponensis* の雌と同定された2例がある．④と⑤の2例は著者の一人山口が同定した．また，②については馬原（私信）によると，前記の馬原・藤田（1987）による阿南病院の症例と同一と考えられる．

愛媛県では，秋山（1984）は銅山峯で31歳の男性から *I. monospinosus* の人刺咬例を，木村（1987）は同じく石槌山で，ワンダーフォーゲル部の活動中に刺咬を受けたと考えられる21歳の男子学生の左鼠径部に *I. persulcatus* を見いだした．また，同部で同じく石鎚山で部活動中に刺咬を受けたと考えられる18歳の男性が，左右側腹部と下腹部の3カ所の刺咬部周囲に発赤を伴ったダニを認め，1匹は自分で除去したが，他の2匹は取れないので受診し，皮膚片ごと切除された虫体は，著者の一人山口により，*I. persulcatus* と同定されたことを報告している．

また，香川医大皮膚科の沼原は，1986年7月29日に愛媛県のある山に登ったさいに刺咬を受けたと考えられる，香川県三木町在住の30歳の男性の左上腕内側に吸着していたマダニを同月31日に皮膚片ごと除去し，著者の一人山口により *I. ovatus* の雌と同定されている（村主博士からの私信）．

一方，香川県内では，1984年7月16日に，当初，腫瘤の疑いで，皮膚片ごと切除された三木町在住の78歳女性の右腋下に寄生し，初診の10日ほど前から痛痒を伴っていた虫体は *I. nipponensis* の雌と同定された（前症例と本症例は未発表）．

高知県では，S. Hiromatsu の collection に安芸市の野兎からの *Ixodes persulcatus* の刺咬例が報告（Keegan and Toshioka, 1957）されているが，これらは *I. nipponensis* の疑いが残されている．斎藤ら（1973）は西土佐町で *Haemaphysalis renshi* に類似した *Haemaphysalis* sp. を報告し，Takada *et al.*（1988）は高知県東部の東洋町および室戸市において，*H. flava*, *H. formosensis*, *H. hystricis*, *H. longicornis* の生息を認めているが，人の症例はこれまでまったくなく，今回の12症例13匹が，初めての高知での人体刺咬の確実な報告例であろう．ただし，症例8の *A. testudinarium* の1例は徳島県で刺咬を受けた可能性が高いことは前記した．

このように高知県のマダニの人刺咬例についての報告は少ないが，今回の調査からその種類は，*I. nipponensis* 5例，*A. testudinarium* 3例，*H. longicornis* 3例，*I. ovatus* 1例であり，また，*Argas* sp. near *vesperilionis* の存在も確認された．症例数が少ないとはいえ，四国を含めた国内の他県と比較してもこれらの種はまれな種類ではない．

マダニ類は人を含めた家畜や野獣から吸血するのみならず，時に各種の感染症の媒介者ともなるので，その被害は軽視することができない．とくに高知県から徳島県にかけては，最近，紅斑熱感染の報告があり，その媒介者となるマダニ類に関してはまだ明らかではない．また，ライム病の発生も国内各地から報告されている．

今後，紅斑熱の vector の検索をとくに考慮しながら，高知県を含めた四国のマダニの種類の分布についてさらに調査する必要があろう．

本報告にあたり，香川医科大学病理学講座寄生虫学村主節雄博士，同大学皮膚科沼原利彦博士，滝宮病院外科大森義一博士に香川および愛媛県の症例について，また，徳島大学医学部寄生虫学教室伊藤義博博士と馬原医院馬原文彦博士に徳島県の症例について多くの御教示を賜ったことを付記し，深く謝意を表したい．

本報告は第37回および第44回日本衛生動物学会西日本支部大会（1982，1989年）および第40回高知県医師会医学会（1987年）において発表した．

引用文献

秋山尚範（1984）：マダニ皮膚寄生の1例．日本皮膚会誌，**94**：976.

Keegan, H. L. and S. Toshioka (1957): *Ixodid Ticks of Japan, Korea, and the Ryukyu Islands*, 37pp., 406th Medical General Laboratory.

木村恭一（1987）：マダニ刺咬症．香川県立中央病院医学雑誌，**6**：168-169.

近藤力王至，吉村裕之（1982）：最近経験した節足動物刺咬，寄生例．日本医事新報，**3029**：37-40.

馬原文彦，藤田博巳（1987）：紅斑熱リケッチア症流行地におけるマダニ咬症の7例．感染症誌，**61**：1343.

馬原文彦，藤田博巳（1989）：日本紅斑熱とその媒介者．最新医学，**44**：916-919.

斎藤　豊，大鶴正満，H. Hoogstraal (1973)：高知県江川崎の *Haemaphysalis* (*Kaiseriana*) sp. について．衛生動物，**23**：267.

佐川禎昭，福原健佐，浦野芳夫，瀬上三貴（1978）：マダニの陰嚢寄生例．西日本皮膚，**40**：577.

NII-Electronic Library Service

The Japan Society of Medical Entomology and Zoology

Takada, S., H. Fujita, F. Mahara, T. Tada and W. H. Huang (1988): Surveys of natural cycle of spotted fever pathogens in Japan. *In: Proceedings of Sino-Japanese Symposium on Parasitic Zoonoses 1988*, 185-192.

植田一穂，前田建生，前田孝雄，窪田 清，橋口義久 (1987)：マダニ咬着症の2例．昭和62年度第40回高知県医師会医学会抄録集，54-55.

山口 昇 (1989)：マダニ刺症—種の多彩と症例の増加．最新医学，**44**：903-908.

山口 昇，鈴木 博 (1981)：マダニ類による人体刺咬の珍しい数例．衛生動物，**32**：171.

山口 昇，高田伸弘 (1981)：マダニ類による人体刺咬39例．衛生動物，**32**：86-89.

Summary

Twelve human cases of ixodid tick-bite in Kochi Prefecture, Japan, since 1982 were recorded.

Causative tick species were: *Ixodes nipponensis* (5 cases), *Amblyomma testudinarium* (3 cases), *Haemaphysalis longicornis* (3 cases), and *I. ovatus* (1 case).

NII-Electronic Library Service